

定例交流会

2025年11月25日(火)

オンライン 19～20時

事前申込制・参加費無料

「共生社会研究会」の機関誌再刊に当たって、
査読者と投稿者が学び合う査読をどう進めるか

柏木 宏 (大阪市立大学 名誉教授 / 本研究会 会長)

田中 逸郎 (NPO政策研究所 理事・研究員 / 本研究会 副会長)



学術研究の進展には、研究成果を論文として整理、発表することが不可欠です。この論文の質を確保するために、大半の学会は、査読制度を導入しています。査読においては、査読者と投稿者の間で、建設的なフィードバックを通じた知的交流の機会の確保が強く期待されます。

とはいえ、査読の心得や手法などを学べる機会は、あまりありません。そして、査読における論文に対する考え方や重視すべき点は、しばしば個々の査読者に任されるため、投稿者が査読結果をどう反映したらよいのか、判断が難しい場合もあるようです。

査読者＝論文の欠陥を指摘する人、投稿者＝査読者から意見をもらう人という、上下関係的なイメージも存在します。しかし、論文の内容を最もよく熟知しているのは投稿者です。また、英語でPeer Reviewと呼ばれるように、Peerすなわち同輩、仲間によって行われる、論文の検討作業です。

したがって、査読者の役割は、投稿論文の掲載の可否を判断するだけではありません。第三者的な観点から論文から何が学べ、どのような意義を見出したのか投稿者に提示し、論文の内容を、同じ研究者として高め合い、その成果を社会に活かしていく必要があるのではないのでしょうか。

このような、査読者と投稿者の間で、建設的なフィードバックを通じた知的交流の機会の確保をどのように進めていけたらよいのか。大学の教員や研究機関の研究者のみならず、共生社会の創造に向けた実践者の方々も交え、共に考え、査読という作業を担う一歩を踏み出してみませんか？

主催

大阪市立大学共生社会研究会

<https://coexisting1.wixsite.com/academy>

大阪公立大学 人権問題研究センター内 (大阪市住吉区杉本3-3-138)

お問い合わせ

大阪市立大学共生社会研究会 担当：古山・宮本

coexisting.academy@gmail.com



大阪市立大学共生社会研究会

共生社会の創造とNPO

お申込み

2025年11月22日(土)までに、
下記のQRコードからお申込みください。

ただし、先着100名となります。



<https://forms.gle/uHmdZUYkEn5Kjha19>

定例交流会 (オンライン)

本研究会では、2025年度から奇数月の15日(*土日祝日の場合は25日)、19～20時にオンラインでの定例交流会をはじめました。主として会員相互の交流の場の提供を目的にしておりますが、非会員の方の参加も歓迎いたします。途中入退室自由のアットホームで和やかな集いになりますので、どうぞお気軽にお申込みください。

共生社会研究

共生社会とは、多様な背景をもつ人々が尊厳をもって生きることができる公正な社会。それを目指すには、構造的に存在する不平等の可視化や抑圧と搾取に立ち向うトランスナショナルな社会的連帯のための理論の構築が欠かせません。そうした社会を変革する力を創りだしていくこと——私たちは、このようなものとして「共生社会研究」を捉えています。